

# 文芸研ニュース

2023年7月27日

—NO. 164—

発行 文芸教育研究協議会  
編集 文芸研事務局



思わぬ豪雨でハイブリッドの実践研(6月)

巻頭 辻委員長より	1
山口大会に向けて	3
サークル便り 枚方より	5
大阪から山口大会へ	6
事務局通信	7
事務局員の妄想日記	8

## 山口大会でわたしたちが

### 提案することの意味

委員長 辻恵子

#### ◆文芸研だからこそその提案をしましょう

二〇一九年鹿児島大会（第五五回）の最後、各地の仲間と「来年は山口で会いましょう」と言い交したというのに、まさかこんなに時が過ぎるとは…。

長い長い三年間を経て、今年二〇二三年、ようやく皆さんとお会いできることが、何よりも大きな楽しみです。ここまで長引いた大会を快く開催してくださる現地山口文芸研の皆さんに、まずはお礼を申し上げます。久々のことゆえ、またコロナ禍を経たために、準備に当たって困難や不安が多かったと思います。本当にありがとうございます。その感謝の思いをもって、現地山口に向かいます。そして今一度、周りの人に「行けなくてもオンラインで参加しませんか」と呼び掛けたいと思います。

さて、コロナ禍で、学校現場ではさまざまな活動が制限され、健康面も生活面も学習面も、困難を極めました。そこには、これをチャンスとばかりに才

ンライン授業などGIGAスクール構想が前倒しになったことも大きく影響しています。この間、一番気がかりなのは、あつという間に変質してしまった授業の有様です。国語科を見てみると、声に出して感想や意見を表明すること、ともに語り合うことがすっかり減ってしまいました。そのかわりに個別の活動が重視され、画面上でそれぞれの考えを「共有」するような形が広まってきました。その傾向は、コロナ禍のおさまりつつある今も続き、定着してきています。

そんな中で、わたしたちが異議申し立てをし、文芸研の考える国語科教育を提案することの意味は、とても大きいと思います。多くの参加者の皆さんは、文科省の推進する方向とは違う文芸研だと分かった上で来られます。もちろん、そこまで考えずにいらつしやる方もおられるでしょうが、少なくとも「今のやり方では子どもの力がつかない」「これでは、おもしろくない」「国語の授業って、いったいどうしたらいいんだろう」と、現状のままではうまくいかないと感じて参加してこられるのだと思います。その期待に応えるべく、教材分析の深さ、豊かさを、子どもたちが語り合い、せり上げていく授業の魅力を提案していきましょう。足りないところや、失敗したところがあっても、人間観・世界観に根差した教

材分析や、「文芸を文芸として読む」授業、「内容を伴った認識方法」を希求していることが伝わることを確信しています。

#### ◆共に学ぶために―詰めが肝心です

提案者、司会者の方はもう一度、レポートを見直してください。自分自身をふり返ってみると、レポートを完成させると「よし、これで大丈夫」と安心してしまったことがあります。でも、提案する機会を重ねて、「そこからが始まりだ」と、いい分科会にするにはどう提案したらいいか考えるようになり、提案の中身に軽重をつけることや、補足説明を入れること、話し合いの時間を組み込むこと：など工夫することの大切さに気づきました。

また、司会者としても経験を積むうちに、提案レポートのよさを引き出し、足りないところがあれば補足することをどこでどうするか、前もってここ、あそこと、準備するようになりました。(私のつたない経験ですみません。もっと大事なこともあるかと思えます)

本番まで詰めが肝心、できれば前日ではなく前もって、司会者と提案者で話し合いを深めておいてください。いい分科会にしましょう！どうぞよろしくお願いいたします。

## ◆最後まで呼びかけましょう

時期的に、なかなか現地に行くことが難しいかもしれません。また、民間教育団体に参加することに慣れていない若手にはハードルが高いかもしれません。子育て中の先生には、余裕がないかもしれません。でも、「オンラインもあるから、参加しやすいよ」とか「若い人も多いよ」、「長谷川義史さんの講演はほんとに楽しいよ」など、相手に合わせて声をかけてください。市や県が主催するような研修では感じられない自由な雰囲気だということも伝えてください。とにかく「一見の価値あり」と粘り強く最後まで呼びかけてください。

山口大会の成功のため、どうかもう一声、あなたの周りの人を誘ってくださいようお願いいたします。現地山口文芸研のみなさんとともに、がんばりましょう。



## 山口大会に向けて

きてみんなさい！山口大会！！

文芸研山口東サークル 酒井 大輔

山口で全国大会開催！

：が決まってから、随分と時間が経ちました。コロナが流行して、楽しみにしていたあまんきみこさんとの鼎談もなくなり、とても残念にしていました。

2021年。コロナ禍でもできることを、ということ、オンラインでの全国大会が開かれました。どんな状況でもできることはあるのだなあと、力をもらった大会になりました。

2022年。今年は山口か？！...と思っていたら、まだコロナ禍の真っ只中で、オンライン開催に。しかもなんの間違いか、実行委員長をやっていました。通常の大会を開催した経験さえなかったので、不安の大きい役割でしたが、多くの先生方に助けられ、なんとか大会を成功させることができました。

そして、2023年。ついに山口大会です。ついに対面の学習ができる全国大会です。記念講演は絵本作家の長谷川義史さん。以前広島大会で講演を聞いて以来です。そのユニークな語りで参加者の心を

つかみ、即興で絵をかきながら講演を進めていくので、見ている人を飽きさせません。

オンライン併用のハイブリッドの分科会もあります。なにより楽しみなのは、参加された方と国語について、授業についてたくさん語り合えるということです。「ちよつと分からなかったから隣の人に聞いてみる」「私はこんな実践をしたことがある」など、オンラインでは話しにくい、まあいつかで流していたことも、対面なら話せます。聞けます。学習も深まります。参加者の皆さんとたくさん話せることも、楽しみの一つです。

また山口には、美しい景色の角島、日本三名橋のひとつ錦帯橋などの名所があります。幕末の偉人たちの生誕の地が県内各所にあたり、昔の街並みが残っている保存地区も多くあり、歴史を感じることできます。三方を海に囲まれているので、おいしい海の幸もたくさんあります。和牛の原型といわれる天然記念物の「見島牛」、見島牛とホルスタインを交配させ誕生した「見蘭牛」なども美味です！「やきとりの聖地」長門市も有名です。山口大会が終わった後にはぜひ観光にグルメに、山口を堪能して帰ってください！

ぶち楽しいけえ、きてみんなさい、山口！！

## 山口大会に来てみんなさいね

文芸研山口東サークル 大田 晃司

もうすぐ夏至を迎える6月中旬の昼下がり。私たち山口東サークル員は、『おおきなかぶ』の登場人物たちが力を合わせるように、山口大会宣伝のため、約五百校分の案内封筒詰めを一心不乱に行っていた。山口の地から、文芸研の実践が全国各地に広がるようお願いながら。

いよいよ、第五十七回文芸研全国大会（二〇二三文芸研・山口大会）が間近に迫ってきた。

山口大会に向けて、これまで県内各地で学習会を開催し、参加者とのつながりをつくるなど、宣伝・普及活動に力を注いできた。その成果が試される時がやってきたのだ。

そんな中、サークル代表の清田から、サークル員にメッセージが届いた。一人ひとりへの温かい感謝の気持ちが届わってくる。よし、もうひとがんばりしよう！大会までに、どんな困難があろうとも、みんなで団結して乗り越えていける。本番が楽しみだ。

さて、この文芸研ニュースを読まれている方は、山口大会にどんなことを期待しているのだろう。久しぶりの現地開催（オンライン配信もあり）なので、

レポーターの実践にかける熱意が直に伝わるはずである。そして、時間があれば地元の温泉（足湯）やグルメも楽しんでほしい。今年の夏は、山口大会に来てみんなさいね。 （来てくださいね）



山口東サークル代表の清田（右）を中心に、  
封筒詰めをするサークル員

写真は大田が撮影

## サークル便り（枚方より）

### やっぱり対面やなあ

枚方サークル 松山 幸路

枚方サークルの国語の教室は、コロナ禍でもオンラインで何とか繋いできていました。ようやく色々と緩和された今年度は、四月・五月と対面に戻して学習会を開きました。かつては、野澤正美&智子さん両氏が講師となる一日開催でした。今ではメンバーで講師を分担し取り組んでいます。

会場は、枚方市駅近くです。京阪枚方市駅から徒歩で行ける会場を野澤智子さんに予約してもらい、低・中・高学年の三つの部屋に分かれ、六教材を学習し合っています。

オンラインでやってきたここ二、三年ほどは、それまでにはなかった遠方からの参加者が見られました。オンラインの良さですね。ただ、驚くことに久々の対面を再開した中でも少し遠方からの参加が見られます。一番の遠方は、大阪府枚方市の国語の教室に、高知から顔馴染みの畠中さんが参加されました（笑）。お話を聞いてみると、大阪に来る用があつて、タイミン

枚方は、大阪府の中では北東部、京都寄りに位置し、兵庫県からは離れているのですが、兵庫県西宮市からの参加もありました。これは、枚方サークルで事務局的な仕事をしてきている福崎さんが、広く知らせてくれていることも影響していると思います。

オンライン時代には、なかなか難しかった学習の合間や、学習後の雑談も参加者さんと時間が取れるのも、対面の学習ではしやすいなあと今回感じました。たまたま同じテーブルに座った先生と話していたら、大阪市内に勤めているという話。自宅は枚方。勤務校の話から、家族の話から、現在教員採用試験に向けても頑張っている講師さ

んだと分かりました。山口大会の話もしてみたら、とても興味を持ってくれました。情報が色々ほしいということで、サークルのLINEグループにも入ってくれました。これからの国語の教室や、八月下旬の枚方集



会にも参加しれくれるかもしれません。

オンラインだったからこそまでいけたかなと思います。対面で、同じテーブルで、同じ空気を吸ってというのはけっこう大事な気がします。山口大会でも、それぞれまたまた座った席が、色々な人の運命を変えるのかもしれない。

## 大阪から山口大会へ

山口大会に参加するにあたって

青年学校18期生 庄司萌

「日本全国で、朝になると子どもたちが起きて、ランドセルを背負って登校しているってすごいよね。」以前、学年を組んでくださったいた先生が仰っていた言葉です。最近この言葉をよく思い出します。朝になると子どもたちは学校に来る。それも、日本各地で。当たり前のように感じていましたが、昨今の世界情勢を知れば知るほど、当たり前ではないのだと思います。

今、文芸研「青年学校」の18期生として学ばせていただいています。この学べる環境も当たり前のものではないと思います。お忙しい中時間を作ってご

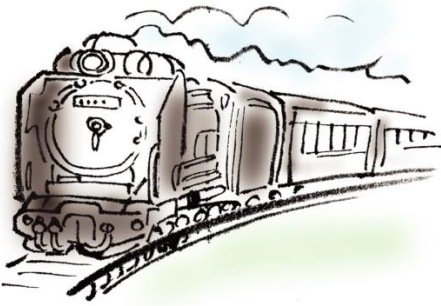


講義してくださる先生、オンラインの環境を整えてくださる先生、学習会の案内等をしてくださる先生、学習会の連絡調整をしてくださる先生、学習の資料を準備してくださる先生、当日の司会進行をしてくださる先生、同じ18期生として学習会に参加している先生など、本当に様々な先生方のお力があって、私は学ぶことができています。

全国大会は、コロナ禍前に開催された神戸大会に参加させていただいたことがあります。

しかし、当時は、多くの先生方が集まって学んでいる姿にただ圧倒されて終わってしまいました。今回の山口大会に参加するか迷っていたのですが、前回より少しでも学

び取っていただける自分になっていければ良いなど、力試しのつもりで参加申し込みをしました。全国の先生方と共に、しっかりと学んでいける2日間にしたいです。学べる環境に感謝しながら。



## 事務局通信

○暑い夏がやってきました。第32回山口大会は、3年ぶりの対面大会であるとともに、これまでのオンライン大会のノウハウも生かしたハイブリッドでの開催となっています。来て下さる参加者の為にも素晴らしい大会に皆様と一緒につくっていきたいと強く感じました。それも清田大会実行委員長をはじめ山口東サークルを中心とした中国ブロックの皆様のご尽力があったからです。また、全国委員会を中心とした全国サークルの皆様のサポートがあったからこそです。清田実行委員長の「これからは地方のサークル員の少ない所でもできるように全国委員会の方の協力や全国サークル員のサポートも含めた大会を目指したい。」という言葉とても印象的でした。西郷会長が一人で行脚され全国で芽吹いた文芸研の灯を私たちの手でまた広げていきたいと感じています。

また、文芸教育誌の呼びかけに全国で応じて下さったことも本当にありがとうございました。全国で、日々のサークル活動、国語の教室、職場での声掛けなど本当に様々な工夫をしていただいていると思います。今後とも一人でも多くの方に文芸教育誌を手

渡していけるように力を合わせて取り組んでいきましよう。

○いつもご協力や温かい言葉かけをありがとうございます。新事務局の体制になり、実践研のだんどりは赤穂さんに、会計は酒井さんにと役割を分担してきています。事務局の仕事は、目につきにくいですが、全国のサークル員の方とのメールや電話でのやり取りをして、運営しています。参加の可否や連絡の締め切りなど、日々忙しい中でのタイトな仕事を事務局は対応しています。本当に忙しい毎日ですが、事務局のメンバーをサポートする意味も込めて、今一度連絡や締め切りなどの確認を今後ともよろしく願います。

## 今後の予定

・ 8月26日（土） 20時より

サークル代表者会議（オンライン）

・ 12月26日（火） 27日（水）

冬の実践研（神戸）

## 【事務局員の妄想日記】ある日の学級通信より

知られたかもしれない

中二の長女とは、今では二人で出かけることはありませんが、小学校中学年ぐらいまでは、けっこう二人でデートしていました（笑）。カラオケに行ったり、鴨川を見つめながら、アイスクリームを食べたり、学校で必要な文房具が何かがなかなか見つからず、色々な店を巡って探す旅をしたりと。最近では、水曜日に習い事のお迎えに行く時ぐらいしか、二人の時間はありません。

それが先週金曜、家族でまだ取得していない私と長女二人で、マイナンバーカードを取りに行くことになっていました。京都四条に手続きをしに行かなければならず、駅で待ち合わせて向かいました。

帰りに、ちょっとスイーツでも買ってやろうかなと思いながら、学校や友達の話聞きながら会場まで二十分歩きました。今日はたいしたハプニングもなさそうだ。良かった。そう思ったのもつかの間、思わぬことが起きました。

手続きは、よくある氏名や住所を書くだけでなく、パスワードを決めないといけません。パスワードは



色々な場面を使うので、Aの時はこれ、Bの時は、Cの時はと、変えてはけません。それぞれ覚えておけないからです。だから、いつも使うパスワードを  
用紙に書いていました。

そこでもいつもと違う状況であることに気が付きました。私が書いているパスワードを、長女がじっと見ているような見ていないような様子だったので。私は軽くペンを持たない左手でブロックしました。なぜなら、長女に関係するものでパスワードを作っているからです。長女であれば、パスワードを見れば「あっ、自分や!」と分かるものです。父が自身のパスワードを、自らの誕生日や好きな芸能人に関わる何かで作るのではなく、長女に関わるもので作っていると知られたらちよっと恥ずかしいではないですか。パスワードを知られたら困るというより、パスワードの意味を知られることが恥ずかしいということです。

肝心の長女の反応は、どうなのか。特に何かツツコミを入れてくる感じでもなく、またすぐに違う方向を見ていたので、パスワードが何かがバレたかどうかは、こちらからは分かりませんでした。長女が生まれた頃から作ったパスワードは、だいたいがそれです。十年以上慣れ親しんだ力ギでもあるので、まだまだ使い続けるでしょう。彼女が大人になって

もまだその力ギを使っていると思います。

